第３期第９回川崎市多文化共生社会推進協議会
会議録（摘録）

会議名		第３期第９回川崎市多文化共生社会推進協議会
日　　時		令和７（２０２５）年１１月２１日（金）　１４時～１６時
場　　所		本庁舎３０６会議室
出席した者の氏名	委　員	(1) 大西　楠　テア　委員 (2) 小ヶ谷　千穂　委員 (3) 孔　敏淑　委員 (4) 南　昭子　委員　(5) 本田　量久　委員
	事務局	市民文化局市民生活部多文化共生推進課 （1）小出課長（途中出席）　（2）吉留担当課長　（3）藤澤担当係長 （4）河田専門調査員
欠席した者の氏名		
議事及び公開・非公開の別		議題（公開） １　開会（公開） ２　本日の日程、資料確認（公開） ３　報告書について（公開） ４　地域日本語推進に関する部会について報告（公開） ５　その他（公開） ６　閉会（公開）
傍聴者		０名
配布資料		・座席表 ・委員名簿 ・資料１　川崎市多文化共生社会推進協議会（第３期）審議計画（案） ・資料２　第３期川崎市多文化共生社会推進協議会報告書　ドラフト ・資料３　第２回地域日本語推進に関する部会　資料（抜粋） ・資料４　地域日本語教育の推進に関する部会資料 ・第３期８回川崎市多文化共生社会推進協議会会議録（摘録）

１　開会

○吉留担当課長（会議の成立、会議の公開について説明）

２　本日の日程、資料確認

○藤澤担当係長　（日程説明、資料確認）

３　第３期川崎市多文化共生社会推進協議会報告書について

○小ヶ谷会長　報告書の内容について、前回から変わった部分やまだ考えている部分についてお話いただきたい。「はじめに」の部分は、加筆しておらず、いろいろと御指摘をいただいているが、最終的に全体を通して見直したいと考えている。

では、順番に、個別課題の検証について「医療」から行う。大西委員から、概要を説明

していただき、　他の委員の皆さんから質問いただくという形にしたい。

○大西委員　施策の取組状況は、施策の実施状況表から関連するものを抜き出し、担当所管を入れる形にしたが、見落としがないか委員の皆様に確認してほしい。コメントと今後の課題は、議事録から引用してまとめた。川崎病院の外国人患者を受け入れる体制について、総論と各論のような形で①から④のとおりのような書き方をしたが、書き方について御指摘いただきたい。

○小ヶ谷会長　内容について簡単に説明をお願いする。

○大西委員　川崎病院は外国人の受入れ体制として、４つの内容を行っている。①医療認証制度の取得、取得のための多言語化 ②医療通訳サービス ③職員の研修 ④外国人患者の来院状況の把握
これは、ヒアリングの結果わかったことである。最後のコメントの部分は、川崎病院は、本来の先端医療と地域医療の役割分担が合致していないという指摘が委員からあり、外国人市民意識実態調査でも明らかになっていることを記載した。

○小ヶ谷会長　委員の皆様、御意見ありますか。

○南委員　②「ＭＩＣかながわは実際に県内でも派遣数が多い」というのは、どういう内容を指すのか。

○大西委員　ＭＩＣかながわが他にも派遣しているが、川崎病院に特に多く派遣しているということである。どういう文言がいいか御指示いただければ、今すぐ直せるので提案していただきたい。

○小ヶ谷会長　確かに、このままでは少しわかりにくい。他の病院に比べて頻度が高いということですかね。

○孔委員　川崎病院は、ＭＩＣかながわから派遣される人が多い印象である。

○大西委員　「川崎病院でＭＩＣかながわより派遣される数は、県内でも多い状況にある」でよいか。

○小ヶ谷会長　それがいいと思う。

○南委員　もう一点、文末が現在進行形と完了形と書き分けているようで、３ページ下から２つ目の「母子健康手帳交付の際のところが交付した」となっているが、これについてはどうか。

○小ヶ谷会長　現在進行ですかね。

○大西委員　しているにしましょうか。この交付部数については、県全体なのか市全体でということなのか分からない。

○小ヶ谷会長　数字的な部分は、事務局に確認してもらうことになるのではないか。

○大西委員　数字は載せなくてもいいのではないか。載せないということもできると思う。

○小ヶ谷会長　数字は無くてもいいのではという気もした。それに関連して、施策の取組状況のどの部分で、今回ヒアリングの対象になったのが川崎病院であるということをどこかに入れないといけないのではないか。コメントの話と施設の取組状況の関連が何かがわかりにくくなってしまう。

○大西委員　過去の 2024 年 3 月に出した報告書を参照し、施策の取組状況として、ヒアリングを行った機関についてはゴシック体にして、その他はそのままの形で全部載せていたので、それを参考に確認する。

○藤澤担当係長　地域医療担当にも来てもらって、ヒアリングしていたのでは。健康福祉局もヒアリング対象として来ていた。

○小ヶ谷会長　病院だけではないということですね。

○大西委員　貴重な指摘をいただいた。過去の報告書を御覧いただき、どうするか決めてもらうのがいいと思う。

○藤澤担当係長　最初のリクエストは、川崎病院から聞きたいという話であったが、医療のことをオールで聞きたいというリクエストで、病院だけでなく、事務局が調整して医療担当を呼んできた。

○小ヶ谷会長　取組状況を全般的に書いていただくことは問題ないと思う。

○大西委員　高齢者のところは量が多いので、施策の取組状況を誰かにお願いしようと思っている。

○小ヶ谷会長　施策の取組状況全てを網羅的に書く必要はないかと思ったりもするがいかがか。私が言いたいのは、コメントの部分が川崎病院を中心にした取組になっていて、前半の施策の取組状況の説明と連結しているように読めないといけないのではないかということである。

○大西委員　このまま生かすのであれば、コメントの冒頭で、今回は川崎病院を中心にヒアリングを行ったと一文入れればいいと思う。結論として、コメントと今後の課題の冒頭に、「医療機関にかかる多言語資料の普及という観点から川崎病院にヒアリングを行った」と１項目追加する。

○小ヶ谷会長　今後の課題についても川崎病院を中心にした書き方になっているので、そのように少し入れれていただいた方がいいと思う。他に、何かこのセクションに関してありますか。大西委員は迷っていることはないか。

○大西委員　あとは体裁の整え方について、担当個所をどう扱うか、数字等についても入れるのか。

○本田副会長　大西委員のコメントには、番号と見出しが入っていて論点がまとまっているので読みやすい。このようなまとめ方がいいのではというのが率直な感想だ。

○大西委員　「・」についても、ア、イ、ウのようにした方がいいですかね。

○小ヶ谷会長　確かにそのようにした方が引用もしやすいかも知れない。やってみましょうか。

○大西委員　上位がア、イ、ウで、①②はその下位。

○小ヶ谷会長　これが最初のたたき台になってしまうが、階層関係をはっきりさせると何か以外と難しいというか、内容的にリンクするものなのか。

○大西委員　内容的にリンクはするが、現在川崎病院で行っている施策で、それを評価する局面で、後で出てくるのが課題ということ。

○小ヶ谷会長　もしも評価と課題で分けるとすれば、ア､イ､ウのこの状態での併記よりは、ここではコメントと今後の課題というような、そのような分け方の方が素直かも知れない。現状評価とコメントと今後の課題をあまりきれいに分けられないので、わりとまとめた感じで、コメントと今後の課題という形にこれまでしていたと思う。一方で、「a.施策の取組状況」の部分が、現状行っていることというような気がするので、例えば、p4 の JMIP や医療通訳サービスの活用などは、もしかしたら施策の取組状況に入るのではないか。

○大西委員　恐らく全員が、施策の取組状況の部分は、ヒアリングからも入れることはできるが、過去の例を見ると、施策の取組状況のエクセルからの引用が多く、コメントと課題の部分は議事録の内容を使っている。少なくとも昨年に関してはそうなっていた。今後どうするかは、この場で決めればいいと思う。

○小ヶ谷会長　昨年までは中野先生に仕上げをお任せしていてチェックするだけであったが、細かく考えていくと悩ましい部分もある。全体の構成や、並べ方については、もう少し議論を続ける形にして、次のセクションに進む。次の高齢者についても、大西委員の担当である。

○大西委員　コメントと今後の課題について、あまり整理されていないが、議事録から大事だと思うところを抜き出した。施策の取組状況がかなり多く、エクセルの操作が苦手なので、どなたか得意な方にお願いしたい。

○小ヶ谷会長　では、コメントの部分を、簡単に説明してください。

○大西委員　コメントと今後の課題については、議事録に出てきたことを順番に書かせてもらった。やさしい日本語パンフレットの活用、多文化理解研修の開催、通訳体制が病院とは違って介護分野では遅れている。４つ目が、施策の必要性についてで、役所側は利用者が少ないからと言っているが、実際には、言語の壁がありサービスを利用しにくいからという話があり、５つ目は、ケアの問題についてで、現場がわからないから困っている、それが研修につながっていくという２つ目と関連している。

次に、議事録の中でも、多文化共生推進課が何かしらつなげる役割を担うべきと発言されている委員の方もいたので、それを新しい提案の中で入れた。最後は、情報発信について、やさしい日本語によるパンフレット等のケア、外国人市民の使いやすさ、見やすさについて、内容まで検証が必要、これについては、他の項目に入れてもよさそうな感じもする。

○小ヶ谷会長　ありがとうございます。コメントが、けっこう踏み込んだ感じで、私達が議論したことが反映されている。例えば、「施策の必要について認識の食い違いも見られた」と重い言葉であるが、「市全体として外国人高齢者への取組に対する課題感がまだ高くない」と示唆され、これに対して、多文化高齢社会ネットかながわより、事業が少ないことが、介護サービスの利用や相談の少なさに反映されているとの認識が示された。ただし、多文化高齢社会ネットかながわは市の組織ではないので、書き方が難しい。

○大西委員　市の所管課と現場の支援組織との間で施策の必要性について認識の食い違いが見られた。市支援組織でどうか。

○小ヶ谷課長　施策の必要性について認識の食い違いというのは、強い表現である。市として必要ないとは思っていないけれど、事業が少ないから、課題として優先順位が高くないという話と同じこと。

○南委員　この回は休んでいて聞いていないが、介護でも医療でも、困るけれども、現場で何とかしていると思う。問題は、困りますといって、上がってこない。現場でそのままにできず片づけるので、本課が知らないということがあるのだと、話を聞いていて思った。

○大西委員　表現するとしたら、施策の必要性ではなく、必要ではない何か違う言葉がいいのではないか。

○小ヶ谷会長　現場を主語にして、例えば、多文化高齢社会ネットかながわからの、現場の指摘としてこのようなことがあり、そのことがまだ市の中で課題化されていないというような書き方でもいいのかと思う。

○大西委員　当日の議論では、所管課の方が利用の需要は少ないと言って、いやそんなことないという形での反論だったと思うので、基本的にはこれで反映されていると思う。その必要についての認識の食い違いが強い言葉だとしたら、施策の切迫性についてのようにしたらどうか。

○南委員　課題として認識がないのは、通訳とか、そういうことについてか。どんなところに認識がないのか。

○小ヶ谷会長　2行目の「市全体として外国人高齢者への取組に対する課題感がまだ高くない」というのは事実だと思うので、このままでいい気がする。

○大西委員　所管課の課長が、行政としては地域包括センターの方で、ケアマネージャーがケアプラン作成の際に、コミュニケーションで困っているという話を聞いていない。事業所の数が多くあるので、まとまっての状況が把握できておらず、そのような把握が必要なのではないかと思うと言っていた。

○南委員　コミュニケーションの課題ということですね。

○大西委員　多言語化について、現場での課題を所管課にまで上がってきていないということが書きたいのではなかったか。コミュニケーション上の課題について、市の所管課と現場の体感的な困難との間で認識の不一致が見られたではどうか。

○小ヶ谷会長　議事録を今持っていないが、今読んでもらった内容と、求められた感じの何か少しずれを感じる。そのあとのやさしい日本語の話で「現場の利用者や従事者が文化や言葉の壁で・・・・質的な違いがある可能性がある」という一文も、ずれを感じる。

○南委員　事業が少ないというのは、事業所が少ないということなのか。外国人高齢者に特化した福祉事業所が少ないということか。

○小ヶ谷会長　外国人高齢者に特化した事業があまりないため、事務局で回答の担当課として割り振ったものの、所管課として回答できないものがあるということで、多文化高齢社会ネットかながわに来てもらった。課題感はまだ高くないというのは、どのあたりの記録なのか。市全体として外国人高齢者の取組に対する課題感がまだ高くないというのは、全体を通しての先生の所感なのか。

○大西委員　議事録の中から、今すぐに見つけるとはできないが、我々の意見ということになるかと思う。

○小ヶ谷会長　表現の問題だと思うが、「この課題感はあまり高くないことが示唆された。これに対して、外国人高齢者に特化した事業が少ないことが、多文化高齢社会ネットかながわが言った」となると、何かそういう展開だったみたいに思ってしまう。

○大西委員　少し違いますね。ここは削除する。

○小ヶ谷会長　ここに書くと、そういう論点がヒアリングの中で出てきたというふうに読めてしまう。ヒアリングや施策の評価を、検証評価した上での、この委員会としてのコメントという形で、相談件数が少ないから課題化されにくいけれどもそのような話があるというような、全体を通しての話に位置づけを変えたらよいのではないか。今は、やさしい日本語のパンフレットのところで全体的に変わっているので、かなり大きな論点だと思う。4つ目の点が、例えば最後に移動したとしても、全く問題ないと思う。

施策の取組状況をどのように並べるかということがあるが、コメントと今後の課題の部分は、福祉に関して追加する論点はないか。

○大西委員　書き方を大きく変える必要があり、もう少し整理したい。施策の取組状況については、どなたかに代わってほしい。

○小ヶ谷会長　わかりました。それについては検討する。では、次に、図書館について検討する。

○本田副会長　私が担当した部分である。P8では、施策①②に対応する形で、一つ一つ施策の○のところに対応させて、施策の取組状況のところの「・」で対応して記述した。論点をわかりやすくするため、「・」に見出しをつけた。

議事録を主に参考しながら作業したが、施策の実施状況が書かれているエクセルファイルには、図書館に関する内容がほとんど含まれていない。中原図書館の館長にヒアリングを実施したところ、直接日本語教育に関連した内容には及ばず、日本語を勉強するための図書や資料、オーディオブック、電子書籍を購入するなど、そのような勉強できる環境にあるとのことであった。積極的に日本語教育に特化して外国人市民の支援をしているところまでは、実際には及んでいないようだ。

全体のまとめとしては、川崎市立図書館は、特定の個人を対象に支援しておらず、図書の利用状況もデータ化していない。したがって、外国人市民が、図書館にある図書や資料をどれくらい利用しているかということについても把握できないので、実際に、このような図書や資料があるという実態のみをまとめた。前回の会議で、大西委員から、社会教育施設との関連について言及した方がよいと指摘いただいたので、その部分は強調して書いたつもりである。

指針には、ボランティア研修の実施や日本語学習支援等を実施している市民グループとの連携などについて書かれているが、実際には図書館はそのような取組はしていない、あまり連携できていないというような消極的な書き方になってしまった。

「a.施策の取組状況」」で書いた内容が、図書館が消極的で何もやっていないというような書き方になってしまったが、恐らくそれが実態であろう。ただし、ある程度、社会教育施設と連携できているようだし、国際交流センターの蔵書データを図書館と共有化するな

ど、実際にはこれからであるが、その準備ができているのは大きな前進だろう。そのあたりの記述は、「b. コメントと今後の課題」のところで少し触れた。

○南委員　事務局に確認したいが、ほかの施策は、○が 1 個しかないが、この施策はたくさんの○がある中で、図書館が全てを担うわけではないと思う。図書館が網羅的に全部をやるのではなく、やらなければならない施策を明確にして、だから図書館にヒアリングをしたという話にしないといけないのではないか。

○小ヶ谷会長　全部この○を図書館がやるべきだからヒアリング対象にしたわけではない。

○本田副会長　海外の先行事例として、図書館には人が集まる場所としてのコミュニティ機能があると指摘されるが、日本の図書館でもどれくらい機能しているか確認したかったのが、最初の趣旨であった。図書館の役割は、この 10 年位でだいぶ変わってきていて、本を借りて読むだけの場所ではなく、そこに人が集まり、外国人だけではなく子どもや高齢者の居場所になるなど、新しい役割をますます要請されるようになっている。

○小ヶ谷会長　「b. コメントと今後の課題」の記述はとてもよいので、「a. 施策の取組状況」の部分について、やっていないことは書かずに、書くにしても、その施策の中で、ボランティア研修や市民グループとの連携はあるが、外国人に特化したものではないというような書き方で、少しまとめてしまってもいい気がした。このａの取組状況をどう取り上げるかであるが、ヒアリング対象を中心に、そこがやっている施策と絡まっている部分の取組状況を記述すればいいのではないか。過去も、これまでそうだったと思う。

○小出課長　機械的に該当する項目を含む部分を全て抜き出しているだけだと思うので、大きい①②の中で、図書館が行っている取組を書いてもらえればよい。

○本田副会長　あまり何々をしていないという書き方はよくないので、少し整理する。

○孔委員　図書館の役割やサービスなど、図書館の良さを書いてくださるといい。本を検索した時に中原にはないけれど○○にあるとか、返す時もいろいろなところに返却の場所がある、誰もが気軽に行きやすい、入りやすい、そのような空間であると、そのようなことも少し書いてくださるとありがたい。

○小ヶ谷会長　例えばカナダとか、多言語圏文化の拠点の一つとして図書館があることは、古くから言われてきたことで、そのような観点から、ヒアリング対象に図書館を選んだとも言える。今後の課題のところで、今回ヒアリングを通して、多文化共生社会推進施策の中で、図書館が重点拠点の一つになる可能性もあるなど、そのような提案ができるのは意味があると思う。

では、次に、4 番目「多文化共生プラザ」に進む。

「施策の取組状況」の部分は、事実関係を並べるところであるが、前回から追加になった多文化共生プラザが現在行っている活動や、ホームページの内容なども含めて記述をした。

「コメントと今後の課題」は、あまり変わっていないが、前回の会議で御指摘いただいた表現を修正した。ポイントとしては、居場所としての機能や、連携をさらに進めていくとよい、2 番目は広報の課題、3 番目が立ち寄りやすい雰囲気ということ。最後の段落で、視察時には、開設直後だったこともあり情報提供スペースの割合が多く感じられたが、その後、コミュニティスペースを活用して多文化コミュニティひろばが開設されたとサイトを拝見した。

○吉留担当課長　多文化コミュニティひろばは、川崎区の事業である。

○小ヶ谷会長　多文化コミュニティひろばの開設というのはいいと思って書いた。よくわからなかったが、川崎区の事業のスペースとして多文化共生プラザを使っているという関係がわかった。あとは、同様のスペースがもっとあったらよいという声もあると聞いて、拠点として、何かいい刺激になるのではという内容を書いた。

○南委員　　ボランティア活動・市民活動するところに外国人の方も来るというような姿をめざすべきなのではないかと思っている。

○小ヶ谷会長　　恐らく、孔さんから何かいろいろなところにこのような場所を作ってほしいという声が上がっていると以前聞いたので、このように書いたが。

○孔委員　　その時は、相談の窓口が必要だと思った。ただ、多文化共生プラザは、とても入りにくく、重い相談の人が行く感じがする。むしろ、川崎区役所入口のインフォメーション、そこは誰でも立ち寄ったりする。プラザはできてうれしいが、もっとオープンにして、気軽に入りやすい、そのような役割になってほしい。

代表者会議からの提言では、役所に行った時に、パンフレットやＱＲコードではなく、誰かに聞きたいけど、それがなかなか難しい。提言もあってプラザができて、口コミでＰＲを頼まれるが、イメージが少し違うと思っている。相談でけっこう来ているようなので、それも必要かと思う。

○南委員　　気軽に相談ということも、本来なら区役所の窓口に来られ、その対応ができるということを目指していた。

○孔委員　　もともと区役所に外国人の相談があったではないですか。それがなくなってから、またできてほしい、あってほしいと思っている。もともとあったものが、役所の組織が変わりなくなった。

○南委員　　川崎区も。

○事務局　　全区あったが、週２回位しかなく、相談に行こうと思ってもやっていないことが多く利用も少なかったので、全区をやめて集約した。

○孔委員　　一番いいのは、区役所で相談できるところがあってほしいが、それがなくなった関係で、国際交流センターと川崎区役所、そして多文化共生プラザができたが、一番欲しいのは区役所である。昔は外国人登録証の窓口があり、その窓口がなくなってから今の話になっている。今は、気軽に行って何か聞きたいというところではないかと思う。

○南委員　　十分使っていただいてよい。

○小ヶ谷会長　　何か気軽に、立ち寄りやすい雰囲気が必要だという話が、プラザに限らず、区役所と書いてよいものなのか。

○南委員　　いいと思う、区役所で相談を受ける時に、外国人が来られても、他の日本人と同様に普通に対応できればよいのではないか。けっこう区役所は頑張っている。特に、福祉の領域は。

○孔委員　　それなのにどうして役所へ行ったら、外国の市民が何か聞きに行った時になかなか通じないなど、そのような事例はなぜかと思う。

○南委員　　職員は頑張っていると思っていたけれど、全然足りないということはご指摘のとおりだと思う。

○大西委員　　前回の報告書を見ると、川崎区役所の総合案内に通訳の人達がいて、担当課までつないで、要望を伝えてところまでやってくれるという話であった。報告書のコメントに、川崎区役所と多文化共生プラザは近接するようになるので、役割分担も考えてよいだろうと指摘されている。川崎区の総合案内で多言語対応していることが口コミで広がり、他区からも来ている現状があり、総合案内がうまくいっているのを、プラザと役割分担と、役割の引継ぎを考えなければならないという形で書くと、前期との連続性が出てくると思った。

○小ヶ谷会長　　それも加筆しましょうか。

○大西委員　　冒頭の「はじめに」に、前期との連携性を書くような、そのような方針であったので、そこに書いてもいいかと思う。

○小ヶ谷会長　　前の期の話も連続させていという気持ちもあったので、けっこう追加できそうなヒントをいただいた。この４に関しては、いただいた提案で加筆したいと思う。

あとは、高齢者のところの施策の取組状況を書く人を検討しなければならない。

○大西委員　　手伝っていただきたい。

○小ヶ谷会長　　では、私が手伝いしましょうか。このｂの中身に合わせる形で、どのように書くかも事務局に相談させていただくと思うが、施策の取組状況を書かせていただく。

この報告書で、施策の検証・評価 ⑤総括というのを入れるか、「おわりに」だけにするかという議論もあったので、全体が全部できてから考えたいと思っている。スケジュールは2月６日開催は決まっているが、そこからでは遅いので、大西先生と本田先生に、今日のコメントを踏まえて、リライトバージョンを１月上旬にいただけると、それを踏まえてまとめを書いて、全体がつながったものを２月６日に持ってきて検討してもらい、最終版の一つ手前ぐらいまでになる作業を２月６日にできるという段取りでいかがか。会議の１か月前くらいに原稿をいただきたい。

○藤澤担当係長　　仕事は、１月５日（月）から始まる。

○小ヶ谷会長　　では、1月９日にしましょう。１月９日までに事務局に送ってもらい、それを見せてもらい、まとめ的なものを１か月で書き上げる。

先ほど御指摘いただいた末尾の問題と、表現の重複についても修正する。できるだけ今も続いているものはそれがわかるように、始めたことに意義があるものは「始めた」で、続けることに意義があるものには「している」でいく。

2/6だけは少し丁寧に全体を全員で確認しながら進めたいと思うので、そこに間に合うようなドラフトを準備していただくことをお願いする。

では、次に、地域日本語推進に関する部会の報告をお願いする。

４　地域日本語教育の推進に関する部会からの報告

○吉留担当課長　　（資料３を基に説明）

○大西委員　　今回、総合的な体制づくり推進事業は令和5年からと聞いたと思うが、文部科学省から予算がつくような事業なのか。どのような取組なのか、再度教えてほしい。

○吉留担当課長　　当時は文化庁で、昨年度から文部科学省が所管となっており、文科省は2分の1の補助という形で対象となっている事業になる。

○大西委員　　全体の予算規模はどれくらいか。

○吉留担当課長　　今年度1,600万円くらいで、教育委員会の識字学級も含めて、市民文化局地域日本語教育事業と一緒に補助金申請している。

○大西委員　　総合調整会議で、経営者団体や監理団体など、いろいろな団体を巻き込んでいるのがいいと思った。

○小ヶ谷会長　　ありがとうございました。

先ほどまで議論していた報告書にも、地域日本語教育の推進に関する部会の審議計画というのも含まれる。

○藤澤担当係長　　次回（第５回）は２月６日（金）１４時から、場所は本庁舎２１階の市民文化局会議室。

１月９日までに事務局までにドラフトを提出していただきたいということなので、年明けにまたリマインドさせていただく。

５　閉会

以上